



発行所 東京片貝会 東京都港区芝公園2-11-4 電話(433)5925

### 春の集いのご案内 第24回

昭和58年5月29日(日)

柔らかく燃ゆる緑に、心のなごむ頃となりました。片貝会発足以来、諸兄姉の変らぬご支援により、発展の一路を辿りつつありますことは、感謝のほかありません。今回は新しく開館した新潟県人会館の紹介を兼ねて、春の集いを開きます。

郷里を代表される皆様をお招きしました。最近のふるさと状況をお聞きできると存じます。どうぞ、お誘い合わせの上、ご出席くださいます様、ご案内申しあげます。尚、当日は「母校を励ます会」の発足をも企画しています。

- 一、日時 58年5月29日(日)午後一時 (正午より受付)
- 一、場所 東京新潟県人会館(台東区上野1丁目13-6)

菅団地下鉄「湯島」二分(千代田線)、銀座線「上野広小路」六分。国電「御徒町」より七分。

一、会費 三五〇〇円(料理・すし・果物・飲み物)  
返信はがきは五月二十日まで。郷土物産の即売を予定(交渉中)

### 第3回

## ふるさと学校 八月予定

この夏も「ふるさと学校」を郷里のご協力により開催する予定です。これまで該会の手子様の把握がよくなってきましたので、今回は春の集い案内の返信はがきを利用して、対象家庭のみに、具体的な内容をお知らせして、お誘い申しあげたいと考えています。大体提案通りの行程、経費を母子として、新企画をとり入れる予定です。

### 同級会だより

二六級會会(昭13) 本年は東京支部が主催で、六月中に開催の予定で計画中。  
生十四級友会(昭14) 一月十三日、升本で新年会を。片貝から参加者一名を加えて、十六名で懇親会を開いた。吉日を期

## 会の動き

◆テレビ新潟との打ち合わせ  
新年会の実況取材について、事前連絡のため、映像同人の牧隆雄ディレクターが来訪された。  
1月21日

◆新年会  
1月30日  
増寺にて。2面参照

◆新年会の実況を放映  
片貝祭りの実況とともに、盛会だった東京片貝会新年会の模様を、テレビ新潟の番組として、県内に放映された。  
2月5日

◆母校小中学校の校長先生を訪問  
今後母校発展のために、会としても密接な連絡をとる必要があり佐藤会長が訪問懇談した。  
2月5日

◆新潟県人会館視察  
総会の会期に予定している同会  
して、水上温泉で二泊旅行も企画されている。  
和風会(昭17)

◆新湯温泉で二泊旅行も企画  
和風会(昭17)  
一月十九日に水上温泉で、同級会を。出席三十名、内東京から十二名が参加した。東京からの参加者は、榎川越の専多院など見学して、楽しい旅を満喫した。  
ゆくて会(昭18)

◆ゆくて会(昭18)  
一月十七日に蒲田のうなぎ刺身で、新年会を。男子八名女子八名で楽しいひとときを過ごした。片貝から小宮会長と山口さんも参加して、いっそうの賑わいと

館を、役員有志で視察した。精一杯の収容力だが、PRを兼ねて利用することに決定。  
3月20日

◆母校を励ます会役員会  
新年会を提案したことについてその具体化について相談。黒崎正さん宅で。世話人一同のほか、佐藤会長も出席。  
3月24日

◆青楓荘花の旅  
参加者二十数名、詳細は次回の会報で。  
4月17、18日

◆総会準備の役員会(予定)  
自動車庫保会館で、総会案内の発送事務と、当日の具体的な運営について相談した。  
5月1日

理事奥田幸三さんは、眼疾手術のため、一月中旬より療養医大病院に入院中だったが、手術も終了して三月十八日に退院された。今後のご言葉と、会のためにならぬご協力をお願いしたい。  
なつた。  
和好会(昭20)

◆和好会(昭20)  
二月十日、魚戸の升本で。片貝からも十名参加して、三十名の会となった。終ってから、駅前で二次会を。この同級会も揃引きがあり、皆さんに喜ばれたとか。六月には湯沢温泉での二泊旅行も計画されている。

◆風友会(昭25)  
昨年十一月十三、四日、水上の奥利根道で懇親会を。関東、新潟、長野からも参加して、総勢四十五名の盛会となった。楽しい二

日間の旅であった。  
同心会(昭26)

◆同心会(昭26)  
四月三日(土曜)のサンシャインビル三階の「土佐権」で同級会を開催した。東京近県、遠くは愛媛、名古屋、新潟から参加。三十九名の盛会であった。二次会、三次会にも発展した。来年も四月を予定。  
若杉会(昭27)

◆若杉会(昭27)  
一月十九日、新宿で会合。恩師の水島先生をお招きして、盛会であった。参加者十五名。  
新辰巳会(昭28)

◆新辰巳会(昭28)  
二月二十八日升本で。片貝からも数名の方が参加した。三十五名という賑やかな会合であった。尚東京のお世話役をしている黒崎勝さんが、仙台方面に転居されているので、同級の幾人かで共に松島野物を楽しんだという。  
明志会(昭30)

◆明志会(昭30)  
来年四十二歳を迎えるに当り、前払い行事で、この一月十五日に、神社の行事に参加した。  
三月二十七日は、この報告を兼ねて、都内で同級会。十六名が出席して、来年の計画について楽しく語りあった。六月は、湯沢温泉での合同懇親会を予定されている。  
陽光会(昭31)

◆陽光会(昭31)  
上野の木やりで新年会を。恩師の水島、鶴崎(山崎)先生を招待して、盛大であった。片貝から四名、東京は十五名が出席した。  
十三鶴会(昭32)

◆十三鶴会(昭32)  
二月六日、新宿の「天瀬」で。出席は片貝から五名、東京から十五名。楽しいひとときを過ごした。

# なごやかに新年会

## テレビ新潟が取材して

### 芝増上寺(一月三十日)

明るい冬の日射しが、肌に柔かい。おだやかな朝だ。

新年会の前に、母校を励ます会の準備会を会長宅で開いた。

テレビ新潟が取材に

新年会を含め、この会合にテレビ局から取材の申し込みがあったので、狭い部屋がいっそう混雑してきた。

励ます会の世話人を引き受けてくださった佐藤祐一、黒崎正さんほか青年部の方々と、新年会の席上握拳する骨子を、一時間余りまで本日出席の皆さんは、すでに会場へ参集されている筈で、一同は大急ぎで会場の増上寺に向かう。受付が遅れて、こつた返しとなったが、それもよくさばかれて一時十分には開会された。

母校を励ます会のこと

片貝の町長さんとも言うべき協賛会長の吉井進吾さんが、出席してくださったのは、思いがけない喜びであった。

母校を励ます会のあいさつの後、佐藤祐一さんが、会の計画についてその概要を説明して、皆さんの意見を聞く。

まことに時機を得た企画だから

ぜひ推進してほしい、という発言があり、満場の拍手のうちに賛成いただいた。

続いて中学三年の安達新一君が昨年の暮に、農協の有線から放送したテープが会場いっぱいになり流された。

この要旨は、三面の関係記事をお読みいただきます。

吉井協賛会長さんから水道工事、消費パイプのこと、母校の教育が進展している様子



など、詳細にわたって説明いたただいて、いっそう感慨を深くした。恩師の箕輪みね先生が、さつきから待ちかねたように立って、あのテープを聞いて、私はもう一度片貝の先生に戻って、こんなすばらしい生徒を教えてください、と熱くその感動を述べられた。満場の皆さんに、ひとしお共感の輪がひろがった。

新年の懇親を楽しく

湯河原から例会毎にご出席の顧問の広井三代次さんの乾杯で、懇親会が始まった。

このたびは比較的若い層の人達特に伊竹会の皆さんが、同級会を兼ねて多数出席くださったので会場はいっとう盛況であった。久々に会う友、先輩と膝つきあわせて語りあうのは、本当に楽しいことである。歌に、踊りに和気あいあい。堂に入った松下利夫さんの司会ぶりには、つい腰もあがり、のども大きく開こうというものである。

恒例の福引きに人気

会がかねて用意しておいたものほかに、昨年同様、多数の方々から結構な品物をご寄贈いただいた。その芳名は、あしからず省略させていただきますが、ご厚志に対してお礼申し上げます。尚金員の方に、サインペンセット一

組をさしあげた。

フィナーレの大合唱

やがて、しゃがりの演奏が会場に、ひととき響き渡ると、ふるさとに帰ったような気分になる。新年会のフィナーレの木遣り節の大合唱が始まった。互いに肩を組み、手をとりあつて、声を限りに歌い続けた。テレビのライトの元で、殆ど全員が合唱したのだった。

こうして楽しかった新年会も、五時頃終了した。この実況は、一面記事の通り、県内に放送された。当日の来会者(二〇八名) (敬称略)

来賓

協賛会長 吉井進吾

恩師 箕輪みね

会員

・大正35年卒

藤塚ヨカ、吉原ヤウ、高桑きい

丸山松江、錦織ソタ、広井三代次

佐藤量八、安部盛治、神林徳次

大矢福次、水内修治、安達宗吾

大塚たけ、山口富次、高橋清雄

安達徳太郎

・昭和27年卒

山口ヨシ、松井重治、浅田喜八郎

相崎勇次、小川茂雄、小野塚マツ

吉井武二、芝五郎、日下部政子

石上健次、安達武、丸山千代野

浅田鉄二、山口三郎、石黒佐忠太

藤田睦子、芋川とし、黒崎定太郎

丸山春、小宮竹次、相崎善次郎

勝又、功、黒崎孝造、黒崎米太郎

大内登世、神林健次、黒崎敬五郎

高橋一好、朝妻よし、田口加代子

平石フミ、大矢幸治、長谷川ウメ

青柳弘子、藤塚勝次、山口武一郎

吉原菊枝、武藤睦子、堀井豊作



森本比夫

・昭和11、20年卒

黒崎吉吉、山口福次、小野清一郎

高橋四郎、小宮徳次、太刀川善蔵

山田チエ、大矢常吉、山口吉五郎

内山きみ、西村きよ、横見きみ

小野愛子、丹治きみ、五十嵐忠作

穂刈フサ、相崎よし、石原みつ

青木富代、清水松次、佐藤敏雄

佐藤道雄、浅田 猛、松下利夫

山口光雄、西山和子、友田正雄

五十嵐貞雄

・昭和21、30年卒

山岸慶昭、黒崎 正、小野塚茂

本田文夫、山口健次、太刀川 弘

大貫悦子、小杉和子、宮沢道子

及川キヨ、佐藤金三、浅田六郎

丸山恭次、新保ヨリ、石井恵美子

石川春子、山崎勝子、佐藤祐一

本田正弘

・昭和31、32年卒

大塚国夫、藤塚 悟、吉井信三

諸我時夫

写真

上は総会風景

下は会長がテレビインタビューを受けているところ

## 各種建築・設計

浅田 庄次 (大12卒・町裏)  
シズイ (昭3卒・寺町)

川崎市中原区市ノ坪65  
(044-722-0115)

## 新鮮果物

小川 茂雄 (昭2卒・町裏)

豊島区巢鴨3-14-17  
(03-917-3441)

## 建築・設計

小野清一郎 (昭13卒・大屋敷)  
愛 子 (昭15卒・四ノ町)

渋谷区本町1-15-19  
(03-376-5818)

### 母校を励ます会にご支援を

この会は、若い人達の發議で設立されようとしていますが、母校に学ぶ児童、生徒を少しでも励ますようと、考え出されたのが今回の趣旨です。

昨年十一月に安達生恒先生による記念講演会は予期以上の成果を収めることができました。その内容については、前号と本号の関係記事をお読みくださいれば、ご理解いただけると思います。

さし当り五年間を目標にして発足しました。できれば十年、二十年と継続されるなら、これに越したことはありません。

別紙趣意書を同封しました。

片貝会はこれまで、最少の会費で、精一杯の行事を、と心がけてきました。それなのに、今回のご寄付をお願いすることは、まことに気の引ける思いです。然し少数の方々によるのではなく、できるだけ多くの会員の結集によるものであるなら母校に対する励ましも、より強いものになると思えます。ご希望によっては、分割でも結構です。どうぞ、ご理解とご支援をお願い申しあげます。

東京片貝会役員一同

### 深い感銘

安達生恒先生の具体的で、わかりやすい講話に、子ども共ども感銘致しました。広い視野を養い、考えを深めるこの企画をいたした会長さんをはじめ、東京片貝会の方々にもあらためて感謝申し上げます。

片貝小長 田口信先生

### フアイトが湧いてきた

私達は片貝小学校を卒業して、中学校に入學しますが、他校からはまず一人も入ってこないといっています。この町の人しきない学校を、卒業したんだから、互いにかかーいつながりがあるぞに思う。

九月の祭りには、仕事まで休んでお盆に帰ってき、自分達の火花をうちあげよう。そして、嬉しそうに涙を流して、昔の話を語りあう。片貝の町ならはの団結心と、片貝を愛する心ではなからうか。

小学校二万人以上、中学校五千人の先輩達が、四十年、五十年経つても、学校のこと、故郷のことを忘れず、私達に頑張つて欲しいと、毎年多くの品物を寄付して下さいます。他の学校では、あまり見ないことだぞうだ。

私達に不自由なく、運動に勉強に頑張つてほしい、という気持ちだと思えます。

もし、先輩達に、何だ、今の中学は向から向まで悪い、なんて言

われたら、こんなに学校のことを思っていてくれる先輩に申し訳がよいも、何としてでも、先輩達の時よりも、よくしたいと思う。いやよくしなければならぬのだ。

そんなことを考えていると、先輩への感謝の気持ちだけでではなく、やらなくては、というフアイトも湧いてきます。

品物だけではなく、今年は今の日本で大活躍している一人の先輩の話を聞いた。南極越冬隊の佐藤和秀さんと、元大学教授で食糧研究の安達生恒さん。

お二人は私達の学校の卒業生で忙しい中をおいでくださった。先輩の話を聞くと、とても身近か

### 輝く敘勲

勲三等 瑞宝章

### 永井正雄氏

永井正雄さんは三芝町の出身、石上磯次さんの実家の隣。

大正十四年に母校を卒業後、小千谷中学から日本医大に進学された。卒業後、帝大より医学博士の学位を得られる。

それから都内各所の保健所長として、予防医学の行政に力を尽くされた。以後、都の公衆衛生部長

神経科学総合会、研究所長などの要職を勤められた。

更に都立がん検診センター理事オリヒッコ特別委員、感染症学会評議員など、まことに多くの業績を果されてきた。現在は、日本医大の監事として、大学教員の進

展に尽力されている。片貝出身の医学者としては、先

ことまで反論することができた。この方達の話が、聞けるようになったのは、東京片貝会の人達が考え、経費を負担してくださったのだぞうだ。

私達は絶対に、このことをわたしにはしない。そして、東京片貝会の先輩に感謝したいと思えます。同時に、何か責任を感じさせられます。私達も頑張ります。そして皆さんの後に続きます。

先輩、ありがたうございました。(昨年十一月の中学校便りの有線放送を要約。片貝中学三年、安達新一君(八巻)による)

### 若者の会を、ぜひ

いつも会報を送っていただいていた方がとうとうございます。今度、また若い人達も集まれるような会合をぜひつくって下さい。

国部(小野塚) 裕子(昭44)

いろいろの都合で中断してしま

### 役員近況

安達宗吾さん

親類の真景の信仰家、善提寺(麻布)の檀家様代。お寺の復興に力があつた。また、若原人会和同業組合の副会長としておられる

芝 五郎さん

品川区の地区委員として、青少年の健全育成のために活躍されている。地元では、町会の副会長として、皆さんの世話を。

### 建築 (学校・工場・マンション)

北島工務店専務 久賀 友作 (昭28卒・一ノ町)

相模原市中央1-6-9 (0427-35-2621)

### 生命代理店 治東 海上

吉井 武次 (昭28卒・稲場)

越谷市船渡堀向367-89 (新住所) (0489-77-1815)

### 米穀販売

深野 敦子 (昭25卒・八島) (安達)

江戸川区鹿骨町2364 (03-679-2696)

ふるさととは・今

この冬の降雪 日本中が暖冬の異常気象で、過ごし易い冬を喜んでいたが、片貝も例年になく雪が少なかった。このまま春を迎えられるかと思つていたら、三月中旬からの大量の雪となつてしまつた。おかげで雪消えは、昨年よりもずっと遅くなる。農協より肥料の配付もおくれるとのこと。

の通行には支障はないが、今冬から裏通りに設置された。町裏、寺町、茶畑、高見、稲場などの道路である。市の工事費と各町内では水源の工事費を負担して完成した。町内の交通はいつそう便利になつてきた。

雪原まつり、盛大に今年で七回目となる。小栗田原で三月十九日から三日間行われた中でも呼びものは熱気球競技である。片貝からも一球参加した。これは日本選手権の最終予選を兼ねている。当日の優秀気球は、今秋フランスで行われる世界大会に出場することになっている。好天に恵まれ、三万人の人数があつたといふ。

農協前に天気ガイド 昨年の十一月末に、農協の前に天気予報のためのワイザー・モニターが設置された。何かと町民の生活に助けとなつてゐる。特に子ども達の人気の的になつてゐる。中率は八十%とか。

道徳教育中間発表 前にもお知らせした通り、母校小中校は文部省から研究校に指定されている。本年十一月八日にこの結果が発表される。それに先だつて、一月二十日に中間発表があつた。当日は県内は勿論、他府県からも多数の参加者があつて、今秋の発表にむけて貴重な意見の交換が行われた。地域に根ざした道徳教育というテーマであるが、ぜひ立派な成果があがることを祈りたい。

市から表彰された人々 小半谷市はこのたびほう賞条例を作つて、市制記念日の三月十日に士名の方を表彰した。片貝関係はつぎの三名。 安達泰三さん(五之町) 水年町内会長として 相崎理一郎さん(二之町) 先生は、昭和五十年一月から、有線放送で「やせかまど」の解説をされてきた。あともう少しで完結になるところで中断されてしまつた。この放送に一番お世話をしたと云つていた農協の本田組合長さんが中心になつて、郷土史研究会の方々に、浅田先生の親戚として柄沢先生、放送カセットの収録者として佐藤、及び農協の皆さんで、先生を偲ぶ会があつた。二月五日、この座談会の要旨は、先生の命日である四月二十七日頃、有線から放送される予定とのこと。

東京片貝会会計報告 (自昭和57.4.1 至昭和58.3.31)

Table with financial data: 収入 ¥1,833,062, 支出 ¥1,833,062. Includes categories like 前年度繰越額, 年会費, 雑収入, etc.

石上健次さん(昭4卒)三の町 片貝小の高等三年を卒業して上京。島峰徹博士の医科歯科大学の付属校である技工士学校に入學された。勤労を乗り越え、勉学に精進して国家試験をパス。戦時中は中支に五年おられたが、帰国して大学に戻り、学位をとられた。昭和35年に歯科医を開業。大学の推薦で両陛下をはじめ皇族方の診療のため、毎月一、三回宮中と御所へゆかた。以来十五年、学会理事、大学では講師を。

会員この人

黒崎音吉さん(昭13卒) 屋敷軍隊時代から柔剣術で、頭角を現していた黒崎さんは、終戦後も警察予備隊で活躍されていた。もともと地元羽村の町民からの要望があつて、青少年の健全育成の立場で指導することとなつた。以来、全日本柔剣道連盟の役員として、その発展に努力されている。今や幼稚園児、少年から大学ではクラブ活動になつてゐる。団体の競技種目にも採用されて、多忙の毎日、銃剣道、短剣道教士七段

◎あとかき 会報を出していることと片貝のお祭りのことが縁になつてテレビにまで放送されました。それはともかく、私達のように、何かのお役に立てれば、ありがたいことです。どうぞ総会にも同級会便りにも見られるようにこの会も、みな盛会のようにほんとは嬉しいことです。けれども、片貝会には同級会では得られない視野の広さと、深みがある筈です。よろしく協力ください。



(片貝まつりのホスター)



先生は、昭和五十年一月から、有線放送で「やせかまど」の解説をされてきた。あともう少しで完結になるところで中断されてしまつた。この放送に一番お世話をしたと云つていた農協の本田組合長さんが中心になつて、郷土史研究会の方々に、浅田先生の親戚として柄沢先生、放送カセットの収録者として佐藤、及び農協の皆さんで、先生を偲ぶ会があつた。二月五日、この座談会の要旨は、先生の命日である四月二十七日頃、有線から放送される予定とのこと。